氏名
 福嶋 洋
 所属
 文科
 職位
 准教授

職務	項目例		合 %]	活動内容
教育	授業担当 卒業研究 専攻科研究 授業改善 教材開発 教科書執筆 など	計画	40	1. 前期、後期合計16科目の授業を行う 2. 学生間のコミュニケーション機会を増やし、仲間と親睦を深められる授業を展開する
		実績		
	自主研究 外部資金研究(科研費ほか) 共同研究 技術相談 論文・解説・著書学会等発表 特許など	計画	15	1. サッカー選手の脳振盪予防に関するデータを集め、科研費への申請を行う 2. これまでに揃っているデータをまとめ国際論文に投稿する
		実績		
学生生活指導	学級担任 学生相談 課外活動指導 コンテスト指導 など	計画	30	1. 2Cのクラス担任として学生の生活指導を行う 2. サッカー部の代表顧問として、円滑な部活運営を行う
		実績		
務/管理運	主事, センター長, 室長 学科長, 委員長 学級担任 主事補, センター委員, 室員 委員会委員	計画	10	1. 2Cのクラス担任としてクラス運営に関わる校務を行う 2. 委員会にて発言するなどして学校運営に貢献する
		実績		
社会活動	学会での活動 公開講座 出前授業 男女共同参画 国際交流活動 学外団体活動 など	計画	5	1. 九州高専サッカー連盟の一員として競技振興に努める 2. 外部団体からの技術指導依頼に対して対応する
		実績		

教員業務内容報告書

報告者氏名 福嶋 洋 所属 文科 職位 准教授 報告年度 令和 5年度

分		計画		 実績	31 11 TO TO THE
	エフォート	内容	エフォート	内容(計画からの変更点)	記載事項例
教育	30	今年度は下記授業を担当する。 保健体育1・2 生涯スポーツ1・2 リベラルアーツ特論 身体活動・運動不足は人間の死亡を招く危険因子で上位に位置付けられている。学生時代に運動を行うことも重要だが、それ以上に高専卒業後も生涯にわたって運動に親しむことが重要である。その為にも、運動をする事による効果を実感し、学生が運動を楽しめる工夫をできるように授業を展開していく。	30	保健体育の授業を通じて運動を実施する必要性を伝え、それが学生たちにも伝っている。 マーションを付出みでははなって、親睦もで、親睦もの学校生活ので、対いてもよい人間関係が構築できた。	担当科目名· 単位数 卒業科研究· 専学生数 教育方法改善 内容
研究	20	大学サッカー選手における脳振盪の実態について 国際ジャーナルに投稿予定。 高専に運動活動では安全面において多くの改善点 があると思われるので、自身の研究を発展させ安全 な運動環境をつくりたい。	10	新たな知見を入れる 必要があり、投稿予定 であったものが順調に 進んでいない。研究 時間を確保し、改善し ていきたい。	論著総字 文書 ・等 ・等 ・等 ・ 一 の 一 の 行 の 行 行 行 行 行 行 行 代 表 。 会 会 。 一 符 、 で 、 で 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
学生生活指導	20	サッカー部指導 今年度から高体連に参加するが、高体連、高専大会を通じて全部員が心身ともに成長できるように指導していく。	30	高体連に入る事で学生にとって多くの経験が生まれ、問題が起こるたびに自分たちで考え解決するように促した。その結果もあり、部員間の結束も深まってきた。	クラブ顧問 コンテスト指導
校務・管理運営	20	専攻科委員 2年生担任 初めての担任業務となるが学生の声をよく聞くこと、 自分で解決できない問題が発生した場合は教員や 職員に相談することを徹底して、学生が充実した生 活をサポートしていく。	20	初めての担任業務であったが、学生や保護者と情報共有をしてクラス運営を円滑にした。	主 を 事 他 長 長 長 補 会 員 会 事 任 員 会 事 任 員 会 員 会 事 任 員 会 員 会 事 任 員 会 員 。 る 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。
社会活動	10	日本臨床スポーツ医学会 脳神経救急医学会 日本フットボール学会 九州高専サッカー連盟	10	研究においては十分 な活動ができなかった が、高専連盟では大 会開催や運営に関し て貢献できたと考えて いる。	所属学会名 学会期 学開講經 出前好共同 明女交流 男際原団体活動

⁽注)エフォートは各職務にかける(出力×時間)の割合(%)で表示、最小単位を10%あるいは5%とし合計100%となるように記載する。

⁽注)フォントのサイズは10pt~12ptとし、記入欄の行の高さは記入内容に合わせて変更する。